

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年2月9日
【四半期会計期間】	第16期第2四半期（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）
【会社名】	テクノプロ・ホールディングス株式会社
【英訳名】	TechnoPro Holdings, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼CEO 西尾 保示
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木六丁目10番1号
【電話番号】	03-6362-1178
【事務連絡者氏名】	取締役兼CFO 萩原 利仁
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木六丁目10番1号
【電話番号】	03-6362-1178
【事務連絡者氏名】	取締役兼CFO 萩原 利仁
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期 連結累計期間	第16期 第2四半期 連結累計期間	第15期
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年12月31日	自 2020年7月1日 至 2020年12月31日	自 2019年7月1日 至 2020年6月30日
売上収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	79,037 (40,141)	79,451 (40,256)	158,407
営業利益 (百万円)	8,221	9,680	15,772
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	8,191	9,645	15,843
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	5,654 (2,996)	6,623 (3,651)	10,825
四半期(当期)包括利益 (百万円)	5,736	6,956	10,269
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	46,423	51,552	48,229
総資産額 (百万円)	104,725	108,620	107,967
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	156.35 (82.94)	184.45 (101.70)	299.97
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	44.3	47.5	44.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	8,115	10,641	18,059
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	629	927	1,498
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,779	5,107	14,927
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	21,006	27,426	22,797

(注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上収益には、消費税等は含まれていません。

3. 上記指標は、国際会計基準(以下「IFRS」という。)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいています。

4. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2020年7月1日～2020年12月31日）における世界経済は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の拡大が世界規模の影響を及ぼし、先行き不透明な状況で推移いたしました。国内経済においても、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まっていないことから、景気の先行きに対する警戒感が継続しています。

このような経済環境は、当社グループが注力している技術者派遣・請負事業にも影響を与えており、IT技術者に対する需要は堅調であるものの、メカ系技術者、特に自動車等の輸送用機器産業における需要減少が見られ、今後の経営環境に対する不透明感は継続しています。

当社グループでは、前連結会計年度下期以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されたことから、事業継続を最も重視した経営を迅速に実施してまいりましたが、当連結会計年度第2四半期以降、成長に舵を切った施策を導入しつつあります。当第2四半期連結累計期間においては、主に以下の取組みを実施いたしました。

#### (技術者の配属先確保)

主に、機械、電気・電子等の技術領域、輸送用機器業界における需要減退等に起因する解約や契約満了に伴う契約終了が大きく懸念されたことから、既存顧客への契約継続交渉や、解約となった技術者の他の顧客へのシフトを進め、技術者の配属先確保を優先事項として営業活動に取組みました。その結果、当第2四半期連結累計期間の平均稼働率は、前年同期間比で下回ったものの、期初想定を上回り、また、2020年12月末の稼働率は95%を超えるまでに回復いたしました。引き続き雇用の維持を最優先事項として捉え、技術者の配属先確保を進めてまいります。

#### (技術者の確保)

新型コロナウイルス感染症が国内で拡大した前連結会計年度第4四半期以降、新規採用を大幅に抑制してまいりましたが、稼働率の改善と特定技術領域での技術者不足が継続したため、高付加価値技術者を主体に、中途採用を再開いたしました。前連結会計年度第4四半期以降、在籍技術者数は減少傾向となっておりますが、当連結会計年度下期では、旺盛なIT技術者ニーズに対する新規採用及び退職抑制に向けた取組みを継続し、成長の源泉である技術者の確保に努めてまいります。

#### (IT分野へのシフト)

新型コロナウイルス感染症の影響如何にかかわらず、IT分野においては他分野に比べて需要が堅調であるとともに、今後も需要の拡大が予想されております。当社グループにおいて、IT技術者は全在籍技術者の半数以上を占めております。新規採用に加え、ハード系技術領域からのスキル転換を進め、デジタル技術（データサイエンス、クラウド、IoT、セキュリティ、5G等）を有する技術者を拡充し、今後も拡大するIT分野への資源投下を進めてまいります。

#### (新型コロナウイルス感染症対策)

コロナ禍が継続する状況において、従業員の健康・安全確保を最優先とする事業運営を徹底いたしました。具体的には、在宅勤務や時差出勤の推進、Webビデオシステムによる商談や会議体制の構築、マスクや消毒液の全国拠点への配布、押印での承認から他の承認フローへの見直し、一時帰休への対応等を継続いたしました。引き続き、感染症が拡大している状況下であっても、継続して事業運営のできる体制強化を進めてまいります。

これら事業上の取組みの結果、当第2四半期連結会計期間末の国内技術者数は20,189人（前第2四半期連結会計期間末比177人増加）となりました。当第2四半期連結累計期間の平均稼働率は93.7%（前第2四半期連結累計期間比1.9pt減少）に止まりましたが、期初想定を上回る稼働率を維持いたしました。また、以前より技術者一人当たり売上単価の向上を進めてまいりましたが、多くの新卒技術者の入社、政府主導の働き方改革や新型コロナウイルス感染症拡大に伴うテレワークの浸透に起因する残業時間の減少等が影響し、当第2四半期連結累計期間の月次平均売上単価（㈱テクノプロ及び㈱テクノプロ・コンストラクションの平均）は月額628千円（同2千円減少）となりました。なお、直近1年間に入社した技術者を除く既存社員で見ると、前第2四半期連結累計期間比で月額16千円上昇しております。

採用面においては、新規採用の大幅な抑制を継続したことから、当第2四半期連結累計期間の国内技術者採用数は176人（前第2四半期連結累計期間比1,649人減少）となり、国内技術者数は前連結会計年度末に比べて1,075人減少しております。

費用面においては、休業要請等による稼働日数・稼働時間の減少や非稼働技術者の増加により、当第2四半期連結累計期間の売上総利益率は23.3%（前第2四半期連結累計期間比2.1pt減少）となりました。また、コストコントロールを継続して行った結果、売上収益に対する販売管理費の比率は12.9%（同2.3pt減少）となりました。

加えて、国内において雇用維持に努めた結果、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例を受けて、当第2四半期連結累計期間にその他の収益として計上した雇用調整助成金は13億38百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上収益は794億51百万円（前第2四半期連結累計期間比0.5%増加）、営業利益は96億80百万円（同17.7%増加）、税引前四半期利益は96億45百万円（同17.7%増加）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は66億23百万円（同17.1%増加）となりました。

当第2四半期連結累計期間における主要事業分野の業績は、次のとおりです。

（R & Dアウトソーシング事業）

R & Dアウトソーシング事業の中でも好調を維持しているIT分野を拡大するため、ハード系技術者に対するIT教育を実施し、スキル転換により配属を進める取組みを実施いたしました。また、高付加価値技術を有するパートナーとの協業や社内外での研修を積極的に進め、配属先の確保に努めました。これらの取組みにより、当第2四半期連結会計期間末の在籍技術者数及び稼働技術者数は、それぞれ17,590人及び16,809人となり、前第2四半期連結会計期間末に比べて、それぞれ225人及び158人増加しました。その結果、同事業の売上収益は633億4百万円（前第2四半期連結累計期間比1.0%増加）となりました。

（施工管理アウトソーシング事業）

施工管理アウトソーシング事業のメインである施工管理サービスに加え、ドローンを使用した3次元計測、空撮、点検等の実施や、一級建築士事務所の新設等、設計分野・施工管理分野で培われた技術力を基に、様々なサービスを展開しております。同事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は軽微で高稼働率を維持したものの、当第2四半期連結会計期間末の在籍技術者数及び稼働技術者数は、それぞれ2,599人及び2,496人となり、前第2四半期連結会計期間末に比べて、それぞれ48人及び58人減少しました。その結果、同事業の売上収益は99億19百万円（前第2四半期連結累計期間比1.5%増加）となりました。

（国内その他事業）

国内その他事業は、人材紹介事業及び技術系教育研修事業で構成されています。これらの事業はともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前第2四半期連結累計期間に比べ業績が悪化いたしました。特に、人材紹介事業は、顧客企業の採用抑制によって大きく業績が悪化しております。一方、ピーシーアシスト㈱が手掛けるWinスクールは、前連結会計年度より着手したオンラインスクール講座を順次開講しており、通常の来校による受講に加え、オンライン受講を進める等、落ち込みをカバーする施策を進めております。その結果、同事業の売上収益は16億99百万円（前第2四半期連結累計期間比16.9%減少）となりました。

(海外事業)

海外事業では、国内よりも新型コロナウイルス感染症拡大の影響が色濃く出ており、また、国によっても差異がありました。中国ではいち早く低迷状況から脱し、経済活動が活発化しており、従前の日系顧客に加えて中国系顧客へも営業活動を進めております。また、シンガポールも、2020年9月下旬以降の新規感染者数は1日当たり50人以下に抑えられており、事業活動への影響は限定的となっております。一方、イギリス及びインドにおいては、未だ新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立っておらず、テレワーク中心の業務となっております、事業活動は引き続き制限されております。その結果、同事業の売上収益は51億87百万円（前第2四半期連結累計期間比2.0%減少）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,086億20百万円（前連結会計年度末比6億53百万円増加）となりました。主な内訳は、のれん361億74百万円、現金及び現金同等物274億26百万円、売掛金及びその他の債権195億46百万円等であります。

各項目の状況は、次のとおりです。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は540億81百万円（前連結会計年度末比27億74百万円増加）となりました。主な内訳は、現金及び現金同等物274億26百万円（同46億29百万円増加）、売掛金及びその他の債権195億46百万円（同6億67百万円減少）等であります。

(非流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における非流動資産の残高は545億39百万円（前連結会計年度末比21億20百万円減少）となりました。主な内訳は、のれん361億74百万円（同59百万円増加）、使用権資産56億40百万円（同10億8百万円減少）、繰延税金資産35億43百万円（同7億39百万円減少）等であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は370億97百万円（前連結会計年度末比60億67百万円減少）となりました。主な内訳は、買掛金及びその他の債務125億99百万円（同7億70百万円減少）、従業員給付に係る負債69億90百万円（同5億92百万円増加）、リース負債42億32百万円（同16億56百万円減少）、借入金19億89百万円（同24億64百万円減少）等であります。

(非流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における非流動負債の残高は185億99百万円（前連結会計年度末比33億7百万円増加）となりました。主な内訳は、借入金74億62百万円（同42億57百万円増加）、その他の長期金融負債52億33百万円（同19百万円増加）、リース負債50億59百万円（同8億5百万円減少）等であります。

(親会社の所有者に帰属する持分)

当第2四半期連結会計期間末における親会社の所有者に帰属する持分の残高は515億52百万円（前連結会計年度末比33億23百万円増加）となりました。主な内訳は、利益剰余金391億72百万円（同30億32百万円増加）、資本剰余金74億12百万円（同62百万円増加）等であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ46億29百万円増加し、274億26百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、資金は106億41百万円の収入（前第2四半期連結累計期間は81億15百万円の収入）となりました。これは主に、税引前四半期利益（96億45百万円）、前払費用の減少（15億18百万円）、減価償却費及び償却費（13億38百万円）、法人所得税還付額（11億82百万円）等による資金の増加に対し、法人所得税支払額（26億93百万円）、未払消費税等の減少（8億59百万円）、買掛金及びその他の債務の減少（7億75百万円）等により資金が減少したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、資金は9億27百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は6億29百万円の支出)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出(8億30百万円)、有形固定資産の取得による支出(1億80百万円)等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、資金は51億7百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は77億79百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入れによる収入(100億円)による資金の増加に対し、長期借入金の返済による支出(71億58百万円)、配当金支払額(36億6百万円)、リース負債の返済による支出(33億42百万円)等により資金が減少したことによるものです。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(6) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	136,296,000
計	136,296,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日 現在発行数(株) (2021年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	36,140,388	36,140,388	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	36,140,388	36,140,388	-	-

(注) 提出日現在発行数のうち85,492株は、現物出資(金銭債権 509百万円)によるものであります。

## (2)【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日	-	36,140,388	-	6,929	-	1,732

## (5) 【大株主の状況】

2020年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	3,016	8.40
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人香港上海銀行東京支店カ ストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	2,826	7.87
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	1,618	4.50
JP MORGAN CHASE BANK 385635 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号)	1,416	3.94
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY RECEIPT HOLDERS (常任代理人株式会社みずほ銀行決済 営業部)	240 GREENWICH STREET NEW YORK, NEW YORK 10286 U.S.A (東京都港区港南二丁目15番1号)	1,191	3.31
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済 営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号)	873	2.43
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10 (常任代理人株式会社三菱UFJ銀行)	RUE MONTOYERSTRAAT 46, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	806	2.24
株式会社日本カストディ銀行 (信託口7)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	764	2.12
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済 営業部)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号)	739	2.05
JP MORGAN CHASE BANK 380072 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号)	714	1.98
計	-	13,967	38.89

(注) 1. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループより、2020年3月30日付で、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ国際投信株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社、エム・ユー投資顧問株式会社及びファースト・ステート・インベストメンツ(香港)リミテッド(First State Investments (Hong kong) Ltd.)の5社による共同保有形態にて、2020年3月23日現在で以下のとおり株式を保有している旨が記載されている大量保有報告書が提出されておりますが、当社として2020年12月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等 保有割合 (%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	1,226	3.39
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	224	0.62
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	336	0.93
エム・ユー投資顧問株式会社	東京都千代田区神田駿河台二丁目3番地11	41	0.12
ファースト・ステート・インベストメンツ (香港)リミテッド (First State Investments (Hong Kong) Ltd.)	25th Floor, One Exchange Square, Central, Hong Kong	49	0.14
計	-	1,878	5.20

2. ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社より、2020年12月7日付で、同社及びティール・ロウ・プライス・アソシエイツ、インク (T. Rowe Price Associates, Inc.) の2社による共同保有形態にて、2020年11月30日現在で以下のとおり株式を保有している旨が記載されている大量保有報告書の変更報告書が提出されておりますが、当社として2020年12月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等 保有割合 (%)
ティール・ロウ・プライス・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番2号グラントウキョウサウスタワー7階	880	2.44
ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ、インク (T. Rowe Price Associates, Inc.)	米国メリーランド州、21202、ボルチモア、イースト・プラット・ストリート100	2,352	6.51
計	-	3,232	8.94

3. 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社より、2021年1月7日付で、同社及び日興アセットマネジメント株式会社の2社による共同保有形態にて、2020年12月31日現在で以下のとおり株式を保有している旨が記載されている大量保有報告書の変更報告書が提出されておりますが、当社として2020年12月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等 保有割合 (%)
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園一丁目1番1号	1,539	4.26
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	802	2.22
計	-	2,341	6.48

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 231,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,897,000	358,970	-
単元未満株式	普通株式 11,688	-	-
発行済株式総数	36,140,388	-	-
総株主の議決権	-	358,970	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

## 【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
テクノプロ・ホール ディングス株式会社	東京都港区六本木 六丁目10番1号	231,700	-	231,700	0.64
計	-	231,700	-	231,700	0.64

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

注	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び現金同等物	8	22,797
売掛金及びその他の債権	8	20,214
未収法人所得税		1,159
その他の短期金融資産	8	2,275
その他の流動資産		4,860
<b>流動資産合計</b>	<b>51,307</b>	<b>54,081</b>
<b>非流動資産</b>		
有形固定資産		1,726
使用権資産		6,649
のれん		36,115
無形資産		2,149
その他の長期金融資産	8	4,865
繰延税金資産		4,282
その他の非流動資産		871
<b>非流動資産合計</b>	<b>56,660</b>	<b>54,539</b>
<b>資産合計</b>	<b>107,967</b>	<b>108,620</b>
<b>負債及び資本</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金及びその他の債務	8	13,369
借入金	8、10	4,453
リース負債		5,888
未払法人所得税		2,952
その他の短期金融負債	8	2,055
従業員給付に係る負債		6,398
引当金		11
その他の流動負債		8,037
<b>流動負債合計</b>	<b>43,165</b>	<b>37,097</b>

(単位：百万円)

注	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>非流動負債</b>		
借入金	8、10	3,205
リース負債	8	5,865
その他の長期金融負債		5,214
繰延税金負債		400
退職後給付に係る負債		9
引当金		459
その他の非流動負債		138
非流動負債合計	15,292	18,599
負債合計	58,457	55,697
<b>資本</b>		
資本金	6,929	6,929
資本剰余金	7,349	7,412
利益剰余金	36,139	39,172
自己株式	1,000	1,000
その他の資本の構成要素	1,188	960
親会社の所有者に帰属する持分合計	48,229	51,552
非支配持分	1,279	1,370
資本合計	49,509	52,923
負債及び資本合計	107,967	108,620

( 2 ) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	注	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 7月 1日 至 2019年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 7月 1日 至 2020年12月31日)
売上収益	5、6	79,037	79,451
売上原価		58,930	60,928
売上総利益		20,106	18,523
販売費及び一般管理費		11,994	10,231
その他の収益		191	1,515
その他の費用		82	126
営業利益		8,221	9,680
金融収益		51	52
金融費用		69	88
持分法による投資利益( は損失)		11	-
税引前四半期利益		8,191	9,645
法人所得税費用		2,465	2,941
四半期利益		5,725	6,703
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		5,654	6,623
非支配持分		71	80
合計		5,725	6,703

( 単位 : 円 )

親会社の所有者に帰属する 1 株当たり四半期利益

基本的 1 株当たり四半期利益	9	156.35	184.45
希薄化後 1 株当たり四半期利益	9	-	-

## 【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注	前第2四半期連結会計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
売上収益	5、6	40,141	40,256
売上原価		29,581	30,625
売上総利益		10,559	9,631
販売費及び一般管理費		6,144	5,191
その他の収益		80	935
その他の費用		158	51
営業利益		4,337	5,323
金融収益		19	51
金融費用		35	41
持分法による投資利益(は損失)		4	-
税引前四半期利益		4,315	5,333
法人所得税費用		1,287	1,626
四半期利益		3,028	3,706
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		2,996	3,651
非支配持分		31	55
合計		3,028	3,706

(単位：円)

## 親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益	9	82.94	101.70
希薄化後1株当たり四半期利益	9	-	-

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 注 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
四半期利益	5,725	6,703
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産の公正価値の変動	154	115
純損益に振り替えられることのない項目の純額	154	115
純損益にその後振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	165	138
純損益にその後振り替えられる可能性のある項目 の純額	165	138
その他の包括利益合計	10	253
四半期包括利益	5,736	6,956
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,634	6,851
非支配持分	101	105
合計	5,736	6,956

## 【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 注 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
四半期利益	3,028	3,706
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産の公正価値の変動	115	245
純損益に振り替えられることのない項目の純額	115	245
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	285	76
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目 の純額	285	76
その他の包括利益合計	400	321
四半期包括利益	3,428	4,028
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	3,338	3,957
非支配持分	90	71
合計	3,428	4,028

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
2019年7月1日残高		6,903	7,304	31,129	2	532	44,803	1,262	46,065
四半期利益				5,654			5,654	71	5,725
その他の包括利益				2		22	20	30	10
四半期包括利益合計		-	-	5,657	-	22	5,634	101	5,736
新株の発行		25	25				-		-
剰余金の配当	7			3,049			3,049	35	3,084
株式報酬取引			30				30		30
自己株式の取得					1,061		1,061		1,061
自己株式の処分			12		90		102		102
自己株式の消却			12	961	973		-		-
子会社に対する 所有持分の変動額			25				25	25	-
その他の増減			1				1		1
所有者との取引額合計		25	32	4,010	2	-	4,014	60	4,075
2019年12月31日残高		6,929	7,272	32,776	-	555	46,423	1,303	47,726

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
2020年7月1日残高		6,929	7,349	36,139	1,000	1,188	48,229	1,279	49,509
四半期利益				6,623			6,623	80	6,703
その他の包括利益						228	228	25	253
四半期包括利益合計		-	-	6,623	-	228	6,851	105	6,956
剰余金の配当	7			3,590			3,590	14	3,605
株式報酬取引			62				62		62
自己株式の取得					0		0		0
所有者との取引額合計		-	62	3,590	0	-	3,528	14	3,542
2020年12月31日残高		6,929	7,412	39,172	1,000	960	51,552	1,370	52,923

## (4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 注 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期利益	8,191	9,645
減価償却費及び償却費	1,273	1,338
受取利息及び受取配当金	1	2
支払利息	62	56
持分法による投資損益(は益)	11	-
売掛金及びその他の債権の増減額(は増加)	115	675
買掛金及びその他の債務の増減額(は減少)	717	775
預り金の増減額(は減少)	320	187
前払費用の増減額(は増加)	1,719	1,518
リース債権の増減額(は増加)	845	925
未払消費税等の増減額(は減少)	340	859
退職後給付に係る負債の増減額(は減少)	74	79
その他	647	60
小計	11,208	12,193
利息及び配当金の受取額	1	1
利息支払額	44	42
法人所得税支払額	3,087	2,693
法人所得税還付額	37	1,182
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,115	10,641
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	27	830
定期預金の払戻による収入	31	51
有形固定資産の取得による支出	501	180
無形資産の取得による支出	15	28
有価証券の取得による支出	99	-
その他の金融資産の取得による支出	64	35
その他	47	95
投資活動によるキャッシュ・フロー	629	927
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	155	1,000
リース負債の返済による支出	3,084	3,342
長期借入れによる収入	10 1,000	10,000
長期借入金の返済による支出	1,570	7,158
社債の償還による支出	65	-
自己株式の取得による支出	1,061	0
配当金支払額	3,084	3,606
非支配持分からの子会社持分取得による支出	67	-
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,779	5,107
現金及び現金同等物に係る換算差額	68	22
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	224	4,629
現金及び現金同等物の期首残高	21,230	22,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,006	27,426

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

テクノプロ・ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は日本に所在する株式会社であります。当社及び子会社（以下「当社グループ」という。）は、主として人材派遣業、請負業を行っております。当社が登記している本社の住所は、東京都港区六本木六丁目10番1号であります。

当社の2020年12月31日に終了する第2四半期の要約四半期連結財務諸表は、当社グループにより構成されております。

### 2. 作成の基礎

#### (1) 準拠する会計基準

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条によりIAS第34号に準拠して作成しており、年次連結財務諸表で要求されている全ての情報が含まれていないため、2020年6月30日に終了した前年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

当社グループの本要約四半期連結財務諸表は、2021年2月9日に当社代表取締役社長兼CEO 西尾保示及び取締役兼CFO 萩原利仁によって承認されております。

#### (2) 測定的基础

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成されております。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨及び単位

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 3. 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を基に算定しております。

### 4. 重要な会計上の見積り及び判断

経営者は、要約四半期連結財務諸表の作成において、会計方針の適用、資産及び負債・収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断及び見積り並びに仮定を設定しております。会計上の見積りの結果は、実際の結果とは異なる場合があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しており、会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した期間と影響を受ける将来の期間において認識されます。

当社グループの本要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積り及び仮定は、原則として、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについても、重要な変更はありません。

### 5. セグメント情報

#### (1) セグメント情報の概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているセグメントです。なお、報告セグメントの決定にあたり事業セグメントの集約は行っておらず、報告セグメントは事業セグメントと同一であります。

各報告セグメントの概要は、以下になります。

「R&Dアウトソーシング事業」は、自動車・自動車部品、産業機械・装置、情報通信機器、電気・電子機器、IT、半導体、エネルギー、医薬品、化学等の業界における大手企業等を顧客として、機械、電気・電子、組込制御、ITネットワーク、ビジネスアプリケーション、システム保守運用、生化学等の技術領域において、技術者派遣及び請負業務を提供しております。「施工管理アウトソーシング事業」は、建設業界、主に大手ゼネコン・サブコンを顧客として、建築・土木・設備電気・プラント領域における施工管理（安全管理、品質管理、工程管理、原価管理）の技術者派遣業務、建設図面作成の請負業務を提供しております。

「国内その他事業」は、人材紹介業務、技術系教育研修業務を提供しております。「海外事業」は、中国にて技術アウトソーシング及び人材紹介業務、東南アジア・インドにて技術者派遣及び受託開発業務、英国にて技術者派遣及び人材紹介業務を提供しております。

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの会計方針は、連結財務諸表作成における会計方針と同一であります。各報告セグメントのセグメント間の取引は、市場実勢価格に基づいており、セグメント利益は営業利益になります。

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント					全社/ 消去	連結
	R & D アウト ソーシング 事業	施工管理 アウト ソーシング 事業	国内 その他 事業	海外 事業	合計		
売上収益							
外部顧客からの売上収益	62,538	9,768	1,635	5,068	79,010	26	79,037
セグメント間の内部 売上高又は振替高	138	-	408	223	769	769	-
売上収益合計	62,676	9,768	2,044	5,291	79,780	742	79,037
セグメント利益	6,431	1,157	262	353	8,203	17	8,221
金融収益	-	-	-	-	-	-	51
金融費用	-	-	-	-	-	-	69
持分法による投資利益 (は損失)	-	-	-	-	-	-	11
税引前四半期利益	-	-	-	-	-	-	8,191
その他の項目							
減価償却費及び償却費	459	105	151	119	836	295	1,131
顧客関連資産償却費	40	-	-	102	142	-	142
プット・オプション 早期行使に伴う益	-	-	-	-	-	60	60
プット・オプション 債務に係る為替差益	-	-	-	-	-	-	-
プット・オプション 債務に係る為替差損	-	-	-	-	-	61	61
減損損失	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 全社/消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用、セグメント間の内部取引消去が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理費です。

2. 「減価償却費及び償却費」には、「顧客関連資産償却費」は含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					全社/ 消去	連結
	R & D アウト ソーシング 事業	施工管理 アウト ソーシング 事業	国内 その他 事業	海外 事業	合計		
売上収益							
外部顧客からの売上収益	63,164	9,919	1,492	4,852	79,428	23	79,451
セグメント間の内部 売上高又は振替高	140	-	206	335	682	682	-
売上収益合計	63,304	9,919	1,699	5,187	80,111	659	79,451
セグメント利益 (  は損失)	7,704	1,565	26	433	9,729	49	9,680
金融収益	-	-	-	-	-	-	52
金融費用	-	-	-	-	-	-	88
税引前四半期利益	-	-	-	-	-	-	9,645
その他の項目							
減価償却費及び償却費	503	103	156	100	863	333	1,197
顧客関連資産償却費	40	-	-	101	141	-	141
プット・オプション 債務に係る為替差益	-	-	-	-	-	-	-
プット・オプション 債務に係る為替差損	-	-	-	-	-	51	51
減損損失	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 全社/消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用、セグメント間の内部取引消去が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理費です。

2. 「減価償却費及び償却費」には、「顧客関連資産償却費」は含まれておりません。

前第2四半期連結会計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					全社/ 消去	連結
	R & D アウト ソーシング 事業	施工管理 アウト ソーシング 事業	国内 その他 事業	海外 事業	合計		
売上収益							
外部顧客からの売上収益	31,783	4,943	812	2,587	40,127	13	40,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	72	-	223	117	413	413	-
売上収益合計	31,856	4,943	1,035	2,705	40,540	399	40,141
セグメント利益 (  は損失)	3,506	607	154	168	4,437	100	4,337
金融収益	-	-	-	-	-	-	19
金融費用	-	-	-	-	-	-	35
持分法による投資利益 (  は損失)	-	-	-	-	-	-	4
税引前四半期利益	-	-	-	-	-	-	4,315
その他の項目							
減価償却費及び償却費	232	52	75	65	426	147	573
顧客関連資産償却費	20	-	-	51	72	-	72
プット・オプション 債務に係る為替差益	-	-	-	-	-	-	-
プット・オプション 債務に係る為替差損	-	-	-	-	-	138	138
減損損失	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 全社/消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用、セグメント間の内部取引消去が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理費です。

2. 「減価償却費及び償却費」には、「顧客関連資産償却費」は含まれておりません。

当第2四半期連結会計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					全社/ 消去	連結
	R & D アウト ソーシング 事業	施工管理 アウト ソーシング 事業	国内 その他 事業	海外 事業	合計		
売上収益							
外部顧客からの売上収益	31,973	4,943	748	2,577	40,243	12	40,256
セグメント間の内部 売上高又は振替高	74	-	86	196	357	357	-
売上収益合計	32,048	4,943	835	2,773	40,600	344	40,256
セグメント利益 (  は損失)	4,271	780	38	270	5,361	37	5,323
金融収益	-	-	-	-	-	-	51
金融費用	-	-	-	-	-	-	41
税引前四半期利益	-	-	-	-	-	-	5,333
その他の項目							
減価償却費及び償却費	247	51	78	49	427	166	594
顧客関連資産償却費	20	-	-	50	70	-	70
プット・オプション 債務に係る為替差益	-	-	-	-	-	-	-
プット・オプション 債務に係る為替差損	-	-	-	-	-	32	32
減損損失	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 全社/消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用、セグメント間の内部取引消去が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理費です。

2. 「減価償却費及び償却費」には、「顧客関連資産償却費」は含まれておりません。

## 6. 売上収益

当社グループは、国内及び海外で、主に派遣契約及び請負契約に基づきR & Dアウトソーシング及び施工管理アウトソーシング等のサービス提供を行っております。

売上収益については、国内と海外に区分したうえで、国内については「R & Dアウトソーシング事業」、「施工管理アウトソーシング事業」、「国内その他事業」に分解しております。

これらのサービスは、主に契約期間にわたりサービスに対する支配が顧客に移転することから、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断しており、当該サービスの進捗度に応じて収益を認識しております。なお、派遣契約の進捗度は、時の経過に基づき、請負契約の進捗度は、見積総原価に対する発生原価の進捗度の割合で測定しております。

売上収益の内訳は、「5.セグメント情報」に記載のとおりとなります。

## 7. 配当金

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

## (1) 配当金支払額

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月27日 定時株主総会	普通株式	3,049	84.00	2019年6月30日	2019年9月30日	利益剰余金

## (2) 基準日が前第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月31日 取締役会	普通株式	1,807	50.00	2019年12月31日	2020年2月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

## (1) 配当金支払額

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月29日 定時株主総会	普通株式	3,590	100.00	2020年6月30日	2020年9月30日	利益剰余金

## (2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年2月2日 取締役会	普通株式	1,795	50.00	2020年12月31日	2021年3月1日	利益剰余金

## 8. 金融商品

金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)		当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融資産				
現金及び現金同等物	22,797	22,797	27,426	27,426
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産	921	921	942	942
償却原価で測定される金融資産				
売掛金及びその他の債権	20,214	20,214	19,546	19,546
その他の金融資産	4,826	4,731	5,041	4,955
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産	1,393	1,393	1,533	1,533
金融資産合計	50,152	50,057	54,490	54,405
金融負債				
償却原価で測定される金融負債				
買掛金及びその他の債務	13,369	13,369	12,599	12,599
借入金	7,658	7,658	9,452	9,452
その他の金融負債	7,269	7,272	7,288	7,294
金融負債合計	28,297	28,300	29,339	29,345

(注) リース負債については、IFRS第7号において公正価値の開示を要求されていないことから記載しておりません。

## (1) 償却原価で測定される金融資産

主として短期間で決済されるため、帳簿価額は公正価値に近似しております。リース債権及び敷金保証金については、一定の期間ごとに区分し、安全性の高い債券の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (2) 現金及び現金同等物

満期までの期間が短期であるため、帳簿価額は公正価値に近似しております。

## (3) 公正価値で測定される金融資産

上場株式については取引所の価格によっており、非上場株式及び出資金等の市場価格が入手できない金融資産については、純資産価値に基づく評価技法等、適切な評価技法を用いて測定した価格により算定しております。保険積立金については、解約払戻金により測定した価格により算定しております。

(4) 償却原価で測定される金融負債

償却原価で測定される金融負債のうち、買掛金及びその他の債務及びその他の金融負債については、主として短期間で決済されるため、帳簿価額は公正価値に近似しております。借入金については、変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映しており、当社の信用状況も借入実行時と大きく変動していないことから帳簿価額は公正価値に近似しております。

その他の金融負債のうち一部の長期未払金については、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。非支配株主へ付与されたプット・オプションについては、将来契約相手への支払が要求される可能性がある金額の現在価値により算定しております。

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを、以下のように分類しております。

レベル1：活発な市場における同一の資産又は負債の無調整の市場価格

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

なお、公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、各四半期の期首時点で発生したものと認識しております。

償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりであります。なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品に関する情報は含まれておりません。

前連結会計年度（2020年6月30日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>					
償却原価で測定される金融資産					
その他の金融資産					
敷金保証金	1,980	-	1,889	-	1,889
<金融負債>					
その他の金融負債					
長期未払金	5,113	-	2,237	2,879	5,116

当第2四半期連結会計期間（2020年12月31日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>					
償却原価で測定される金融資産					
その他の金融資産					
敷金保証金	1,953	-	1,870	-	1,870
<金融負債>					
その他の金融負債					
長期未払金	5,159	-	2,193	2,971	5,165

## 公正価値で測定される金融商品

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりであります。

前連結会計年度（2020年6月30日）

（単位：百万円）

	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産				
出資金	-	-	869	869
保険積立金	-	-	45	45
その他	-	5	-	5
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産				
株式	1,161	-	231	1,393
金融資産 合計	1,161	5	1,147	2,314

（注）前連結会計年度において、レベル間の振替えが行われた金融商品はありませぬ。

当第2四半期連結会計期間（2020年12月31日）

（単位：百万円）

	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産				
出資金	-	-	867	867
保険積立金	-	-	38	38
その他	-	36	-	36
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産				
株式	1,301	-	231	1,533
金融資産 合計	1,301	36	1,137	2,476

（注）当第2四半期連結会計期間において、レベル間の振替えが行われた金融商品はありませぬ。

レベル3に分類された金融資産の増減は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)
期首残高	705	1,147
利得及び損失合計	52	21
純損益(注)	52	21
購入	165	36
売却	44	67
四半期末残高	878	1,137

(注) 純損益に含まれている利得及び損失は、要約四半期連結損益計算書の「金融収益」及び「金融費用」に含まれております。

#### 9. 1株当たり四半期利益

1株当たり情報は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	5,654	6,623
期中平均普通株式数(株)	36,167,516	35,908,703
希薄化効果の調整		
ストック・オプションによる増加(株)	-	-
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	36,167,516	35,908,703
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	156.35	184.45
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	-	-

	前第2四半期連結会計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	2,996	3,651
期中平均普通株式数(株)	36,129,076	35,908,700
希薄化効果の調整		
ストック・オプションによる増加(株)	-	-
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	36,129,076	35,908,700
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	82.94	101.70
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	-	-

## 10. 借入金

### (重要な借入金)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

当社は、2020年9月25日付でシンジケートローン契約書を締結し、以下の借入を実行しております。

(1) 資金の用途	運転資金
(2) 借入先	株式会社三井住友銀行をアレンジャーとするシンジケートローン
(3) 借入金額	100億円
(4) 借入金利	基準金利 + スプレッド
(5) 借入実行日	2020年9月30日
(6) 返済期限	2025年9月30日
(7) 返済方法	元金均等返済
(8) 担保・保証の有無	無

## 2【その他】

第16期(2020年7月1日から2020年12月31日まで)の中間配当に関して、2021年2月2日開催の取締役会において、2020年12月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しています。

1. 配当金の総額	1,795百万円
2. 1株当たりの金額	50円
3. 支払請求の効力発生日及び支払開始日	2021年3月1日

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月9日

テクノプロ・ホールディングス株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神山 宗武 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 見並 隆一 印

**監査人の結論**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテクノプロ・ホールディングス株式会社の2020年7月1日から2021年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、テクノプロ・ホールディングス株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

**監査人の結論の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任**

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

**要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任**

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。